

車社会化による郊外住宅の変質に関する研究
 —「むき出し住宅」をケーススタディとして—

正会員 ○竹内 敦志*
 同 岩佐 明彦**

郊外 車社会 むき出し住宅

◆研究背景・目的

高度経済成長から続く郊外居住願望は現在も根強い。昭和後期に建造された郊外住宅地では、自分の敷地内において様々なつくりこみがなされ、個性ある様々な住宅や街路空間が形成されてきた (fig.1)。しかし、今日の新興郊外住宅地では、街路に面した塀や柵が消滅し植栽も低くそして小さくなりつつある。また、敷地前面が駐車スペースとなることで、街路と連続的につながり、あたかも街路に直接家屋が面するようになっている住宅が多く見られる (fig.2)。本研究では、このような住宅が近年多く発生してきたことに着目し、その実態を明らかにすることを目的とする。

◇語句の定義 本研究では敷地前面において以下の3つの性質 (①街路と一体となったひとつながりの大きな空間を形成する②玄関アプローチと駐車空間が段差なく街路と連続的につながる③建物外壁が囲い等で隠れず街路に対してむき出しになっている) を持つものを「むき出し住宅」と定義した (fig.3)。

◆調査概要

新潟市圏で建造時期の異なる7地区を選定し (fig.4)、写真撮影と目視及び歩測調査を実施した (平成17年10月)。調査項目は、①個々の住宅のむき出し住宅の判定②住宅の入り方向の調査③駐車可能なスペースの調査④接道長さの測定、の4項目である。同じ条件下で比較を行うために、角地・両サイドを街路に挟まれた住宅は除いた。

◆むき出し住宅の増加

◇むき出し住宅の発生状況 むき出し住宅は建造時期が新しい住宅地ほど多く存在し、これは近年の乗用車保有台数の推移のグラフと相関関係がみられる (fig.5)。ここ10数年でむき出し住宅は比例して増加しており、さらなるむき出し住宅の増加が予想される。

また、むき出し住宅の発生率が高いのは駐車台数が多い住宅 (fig.6)、北入り住宅 (fig.7)、接道幅が狭い (敷地面積が狭い) 住宅 (fig.8) であった (fig.9)。つまり、むき出し住宅が発生してきたのは、敷地面積が狭い住宅により多くの駐車スペースを設けようとした結果であり、庭が南側に確保されることにより家屋が街路側に寄る傾向にある北入り住宅において顕著になっていると考えられる。

◇むき出し住宅の外部領域 かつての郊外型住宅には、敷地前面に設けられていた中間領域によって住宅と街路と



fig.1 昭和後期に建造された住宅地



fig.2 平成以降に建造された住宅地

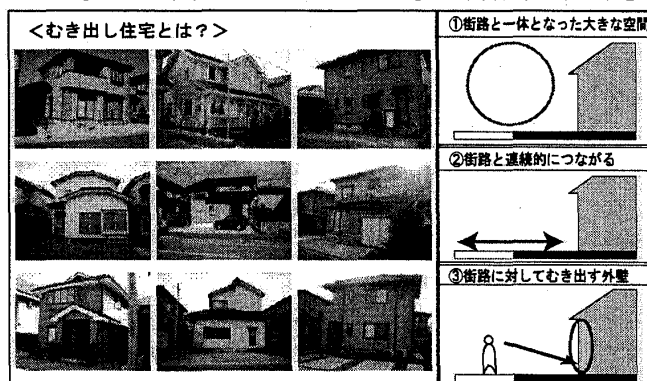


fig.3 むき出し住宅の定義

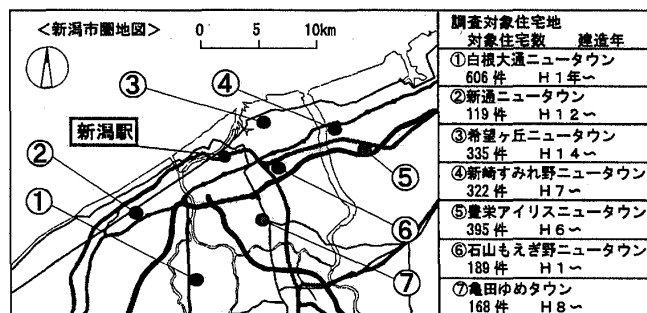


fig.4 調査対象地詳細

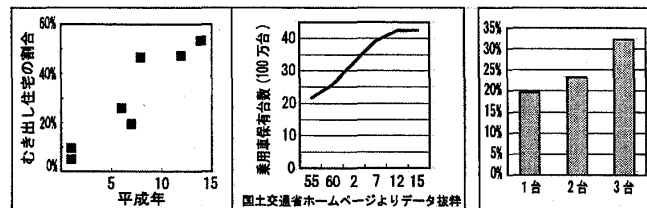


fig.5 開発年代とむき出し住宅の割合 (左グラフ) と 乗用車保有台数の推移 (右グラフ)

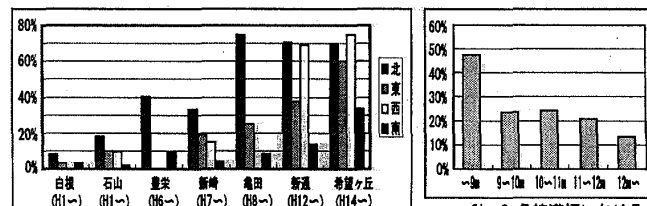


fig.7 方角別のむき出し住宅の割合

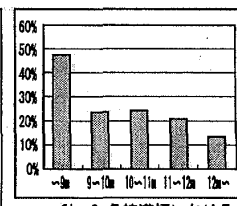


fig.8 各接道幅におけるむき出し住宅の割合

Study on Housings in Suburbo

TAKEUCHI Atsushi, IWASA Akihiko

“Mukidashi House”, Open Facade House Influenced by Car Parking

の間で段階的な視覚的領域が存在した (fig. 10)。内と外は直接視線が交わることなく、中間領域を媒体としてつながっており、個々の住宅は作りこみ次第で多様な領域調整を行うことが可能であった。しかし、むき出し住宅に代表されるような近年の郊外型住宅においては、囲いや植栽が低層化したことによって、外部の視覚的領域が拡大している (fig. 11)。現状では、街路から直接見える (むき出し) 状態になっているにもかかわらず、家の作り方が周りを庭に囲まれた住宅のままである (駐車場に掃き出し窓が直接面している) ことが、街路からの住宅の見え方に唐突感を与えていると考えられる。また、街路との間に視線を遮るものがないため、開口部もカーテン等が閉め切られた状態になっている。

◆敷地前面の現状

むき出し住宅では、住宅の前に植木鉢やプランターといった街路と建物との間の緩衝物となる要素を見ることが出来る (fig. 12)。しかし、車の出入りなどの利便性が優先される結果、これらは隅に追いやられる傾向にあり、またタイヤが置かれるなど街路に対して良好な環境を形成していない。また、清掃道具やバケツなど生活していくうえで後から増えたものが置かれるようになり、物置が設置されるなど、裏口のような様相を呈している。そのため、塀などの表層物がなく住宅が街路に対して大きく開いている (住宅と街路が直接つながっている) にもかかわらず、閉じたイメージをあたえていると考えられる。

◆むき出し住宅が並ぶ街路景観

むき出し住宅は駐車スペース分だけ住宅がセットバックするため、むき出し住宅が並ぶ住宅地は、結果的に街路から一定の距離に外壁面が揃った街並みが形成されやすい (fig. 13)。これはとくに接道幅が狭い住宅地において顕著になっている。「むき出し」状態を前提とし、街路に面することに対応した住宅デザインや外構計画を誘導することで、新しい郊外型景観を形成できる可能性も指摘できる。

◆まとめ

郊外住宅地におけるむき出し住宅の増加は、自動車を優先とした結果であり、自動車に多くを依存し、周辺との関係が希薄な郊外住宅地の典型的風景となりつつある (fig. 14)。現状では、宅地に立つ住宅が街路に対してむき出すことを前提としたものではないため、街路に対して唐突感を与えている。また、駐車場隅に置かれているタイヤや生活用具も有効でなく、結果的に街路全体に閉鎖的なイメージを与えていると考えられる。しかし、セットバックを活かし、デザイン誘導を行うことで、外壁が揃った新たな郊外の街並みを形成出来る可能性も指摘できる。

本研究でとりあげた「むき出し住宅」はわずか 10 数年で急激に生じてきたものであり、更なる増加が予想される。このように変化していく郊外住宅を、様々な視点から継続的にみていきたい。

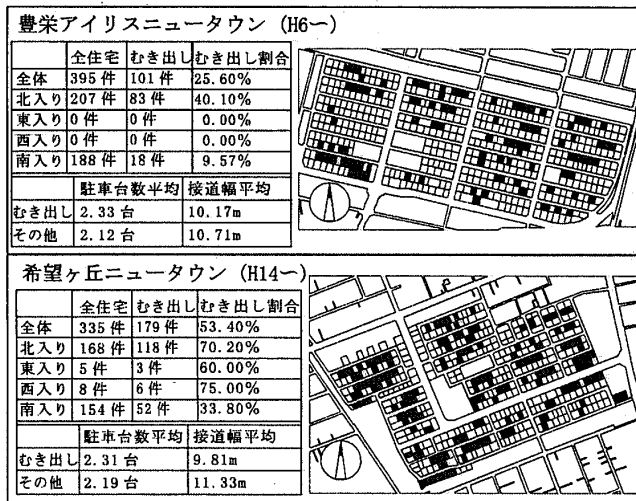


fig. 9 各住宅地におけるむき出し住宅形成状況

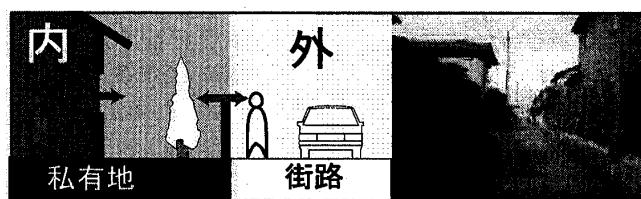


fig. 10 内と外の段階的な視覚的領域 (昭和後期に建造された住宅地)

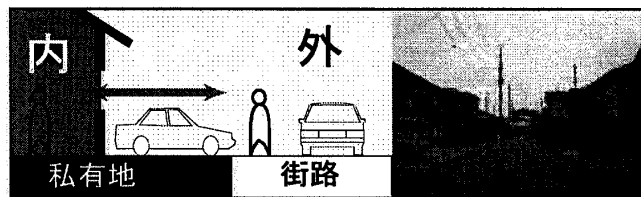


fig. 11 完全に2層化した視覚的領域 (平成元年以降に建造された住宅地)



fig. 12 駐車スペースの周りに置かれた植木鉢やプランター



fig. 13 外壁面が一定位置に形成されているむき出し住宅群

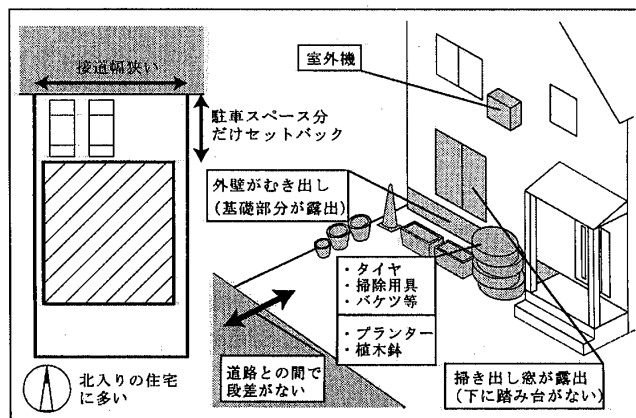


fig. 14 むき出し住宅の特徴

*新潟大学大学院自然科学研究科 博士前期課程

*Graduate Student, Graduate School of Science and Technology, Niigata Univ.

**新潟大学工学部建設学科 助教授・博士 (工学)

**Assoc. Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Engineering, Niigata Univ., Dr. Eng.